

佐伯市が目指す子ども像

○自分の考えをもち、自分の言葉で表現できる子ども

比較対象となる他者の意見が必要です。

少数の環境では、意見が似通ってしまうことがあります。

人数が多いと「自分とは違う視点」に多く触れることができ、自己理解が深まります。

○自他を大切にし、力を合わせて活動する子ども

「自分と合わない人とも、どう折り合いをつけていくか」を学ぶプロセスです。

集団の中で、尊重し合う経験は、ある程度の人数があれば、より豊かになります。

具体的な取り組み

基本目標Ⅰ「生きる力」をはぐくむ学校教育の推進

施策1 確かな学力の育成

- 基礎学力の定着及び読解力、**表現力を育成する学力向上対策の推進**
- 「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」の**一体的な充実**および児童生徒の学びの姿を想定した授業づくりの推進
- 家庭と連携した学習環境の整備と個に応じた家庭学習の充実

- ◇多くの友だちの考えに触れることで、言葉が「伝わる形」になり表現力がより高まります。
- ◇自分とは違う学び方を友だちの中に見つけることは、個の学びを高めていきます。
- ◇多様な意見の中での対立や葛藤を乗り越えることが、新しい考えをつくり上げていきます。

施策2 豊かな心の育成

- 道徳の時間で考え、議論する授業**の実践
- モデル校を中心にした演劇的手法を取り入れた授業実践と本物の芸術等に触れる場の提供
- 児童生徒の発達段階や地域の特性を踏まえた「ふるさと産業教育」の推進

- ◇多様な背景をもつ児童生徒が集まることは、深い議論ができるとともに、「自分とは違う価値観」を尊重しながら、認め合う態度が養われます。

施策3 健やかな体の育成

- 佐伯市や自校の課題解決に向けて作成した「体力向上プラン」に基づく取組の充実
- 運動の愛好度を高め、日常化につなげる「一校一実践」の推進**
- 「**歯磨き指導**」「**食に関する指導**」「**フッ化物の活用**」の3本柱による歯と口腔の健康づくりの推進・充実
- 望ましい食生活と食習慣の形成を図る食育の推進

- ◇運動の愛好度を高め、日常化に繋ぐためには、単に体を動かすだけでなく、「運動が楽しい」「またやりたい」と思える仕掛けが重要です。仲間との励まし合い、競い合いがあれば、よりその思いは強くなります。

「多様な他者」との関わりを持つことができる集団規模を確保する

実現のために

- ◎児童生徒が考えをもち、表現する等の活動の中で、切磋琢磨し社会性を育む環境を整えたり、対立や葛藤を乗り越え、協力することのよさを味わうためには、

一定程度の児童生徒数が必要。

- ◎児童生徒の学びを支え、人間性を育成していくためには、経験年数、専門性等

バランスのとれた教職員の配置が必要。

- ◎**小規模特認校**については、**地域と少人数の良さを最大限に生かしながら、主体性や他者と協働する力を育てていくとともに、小規模校での学習を望む児童生徒の選択肢としての役割**を担う。